



手紙  
横山

服部文庫  
イ 17  
2186  
8





仮書名

雜記帳



一 就産方法



士族平就産方法

上表 是利孫

臣等昧死再上是諱ヲ侵ニ奉欽預以今般生群臣所制  
 度社為至有各々實ニ相出り像々々報開化日新之時  
 當り所賜之定禄ヲ以為生計之像源奉只昭以依右社  
 就中末ニ五抽モ仕産ノ得ル如也之因習之入手就産之可  
 辭スル時ニ所願之民ト為リ不允是又各上  
 聖方ニ度り像々々所賜之定禄更ニ六年お裁仕  
 基ニ至令上ト為し各社産ノ就ニメリト得ル應屬成世ニ  
 民トナリ 天恩ノ多ク一トモ存報之志願ニ仰候之  
 必冊方法ニ通リ採用也也 振身ノ多ク行上之像源也

明治三十二年十月十二日

足利 安田 義苗



古石部

日 佐藤 保之  
檢出 善野 秀  
川上 彦樹

別冊

正利孫支配地

一 現石高式子六万九千六百石

式斗六升式合六勺三才

但 式子年分 辰  
五

現石三万九千石

外 尚末三月中旬 日定 孫村 惣  
作 式子年分 增 石 高

此仕掛

米五万七千石

式子年分 辰 式子年分 辰  
一

米五万石 式子年分 七斗六升

為 式子年分 三斗九勺 辰 年 三斗 拾 上 加

米八万五千石

海陸軍 兵

米三万石 孫名

公 府 法 又 費 高 額 元  
年 到 所 係 格 格 格 格  
番 債 支 所 元 利 八 分 子  
辰 日 金

右米子七万八千石 式子年分 七斗六升

石部

米子三万石 式子年分 九合九勺四才

此代金七千八百三拾四圓

永九万九千九百四圓

至 物 之 後  
但 至 名 分 金 六 拾 拾

此福券法



士族 百五戸  
卒 四十戸

但此戸 金三万有宛  
但此戸 金七千五百宛

初年

元高金七千八百三拾四両  
永九万三拾九文六分四厘

内 金四千五百両

士族十四戸 禄券同以

但一戸金三万有宛

同六万有

卒八戸 禄券同以

但一戸金七千五百宛

同武子七万三拾両

残士族九拾五戸

其割利金三拾五両七厘

同武子四拾両

残卒二千二戸

其割利金七両五厘

右金七千七百七拾両

内

金五拾四両

永九万三拾九文六分四厘

残

其割利金三拾五両七厘

二年目

元高金七千八百九拾九両

永八万三拾九文六分四厘

内

金四千八百有

士族十六戸 禄券同以

但此戸同以

卒八戸 禄券同以

但此戸同以

同六万有



同或子五万五拾五也

日万五拾五也

右金七千八百三拾五也

差

金六十九也

前一万三拾五又二千也

三年目

元高金七千九百四也

永七万五拾五又九千也

内

残士族七拾五戸

是割利金お日

残年二十四戸

日 お日

残 お日

金五千四百也

日六万也

日千七百拾五也

日万五拾五也

右金七千八百三拾五也

差

金七拾五也

永七万五拾五又九千也

四年目

士族中一人福券も書

但お日

年八戸福券日

但お日

残士族年七戸

是割利金お日

残年拾六戸

日 お日

残 お日



元高金七千九百九百

承六万七千八百六十六石

内

金六千五百石

同六千五百石

同千五百石

同六千五百石

左金七千七百七十五石

内

士族二十戸禄券受取

但 お白所

辛八戸禄券受取

但 お白所

跡士族三千七戸

是割利金お白所

跡辛八戸

日 お白所

お白所

金万二千五百石

承六万七千八百六十六石

五年目

元高金七千九百七拾四石

承五万九千八百六十六石

内

金六千五百石

同六千五百石

同四万五千石

右金七千七百七十五石

士族二十戸禄券受取

但 お白所

辛八戸禄券受取

但 お白所

跡士族三千七戸

是割利金お白所







一葉間歸田法

當石了大元有後中唐歸田法

葉間歸

現石壹方九千貳百五十六石貳斗貳升六合三勺

內

現石千七百三拾三石六斗

海陸軍贖

現石壹方七千五百貳拾三石壹斗六升六合三勺三撮

此金拾貳萬貳千五百六拾四石

永九萬六千四百三十三石

但石壹方七百貳拾

此七千石後

金八十五萬八千六百五拾四石

永七萬五拾貳石七千七百

內

金八拾壹萬六千八百五拾六石

此而下者金壹萬金拾壹萬六千七百

去年金拾壹萬六千八百五拾六石而此石三拾五石

此辨誤

金四拾貳萬四千四百石

下札 此等酒 依神皇正統記 卷之四 唐神武天皇 神武天皇 神武天皇 神武天皇

士卒六萬軍也 戶部 永年 水野忠家 歸田元 永年

負債

金貳拾三萬九千四百石

金拾八萬三千五百石

永九萬七千五百石

小以金以拾貳萬七千三百石

永以石五拾貳萬貳千九百

石



金三万五千七百七十九

永田方武蔵の又きふ

中受、

金三万三千七百七十九

永田方武蔵の又きふ

内

金五千七百七十九

外

残金三万五千七百七十九

永田方武蔵の又きふ

残金四万七千七百七十九

永田方武蔵の又きふ

不足

借附

金三万三千七百七十九

永田方武蔵の又きふ

借附

外

金三万三千七百七十九

永田方武蔵の又きふ

右、法ヲ用ヒ七七年ニシテ負債跡ヲ大借印士三年

至リ御田下被シ

一租稅者、今年より大飛省、右御田下自願法金三

千七百七十九、當年より初十月中、少くも法金三

千七百七十九

一御田就産之規則、最重設、皇士三年、内、相成之人

物、右御田破失、之、皇士三年、内、相成之人、毎、年、産

出、産、大飛省、御田、皇士三年、内、相成之人、毎、年、産







辛未十一月六

古和台古久任利通  
古和台井上登平

今般常備隊備有兵隊了其就其分隊之志其  
而洞書身以牛乳十月十日方派東京待衛兵  
尤事在古久任利通其就其日其志其  
出事

辛未十月十七

兵部省

宛下五十七名

丑和	川和	岩和	六和	寺和
三和	佐井和	沼田和	安中和	少和
伊和	古和	宇和	壬和	鳥山和

佐和	古和	黒和	吹和	互和
曾和	土和	麻和	星和	宗和
牛和	上和	石和	谷和	下和
吉和	松和	古和	岡和	多和
光和	生和	古和	法和	花和
徳和	佐和	橋和	古和	松和
徳和	久和	一和	松和	徳和
徳和	古和	古和	古和	古和
古和	古和	古和	古和	古和

古和台古久任利通其就其日其志其

一 小銃 和製衣  
 一 五系 但早也未製衣  
 一 大砲 但屬具衣







一女児洋行

糸原氏士族

日守全氏

吉原正雄娘

亮  
士族

静江氏

永井久吉氏

子守氏

繁  
士族

糸原氏士族

津田仙太郎

梅  
士族

糸原氏士族

山川与十郎氏

松  
士族

十三郎



右ノ開拓使トシテ多ク御旨ニ遵テ右ノ方ニ撰奉米  
國ノ為ニシテ係御所ノ御事ニ此ノ如キ事也

辛酉十月十日

外務省

史官

文書抄 第八部

本部ハ月報編修ノニ務トス編修ノニ者ノ意匠ニ在テ之ヲ筆  
ニ上ス(カ)ス故ニ其筆勢<sup>此カ</sup>ニテ順序<sup>此カ</sup>施後ノ開列ス(キ)者ハ抑  
亦項末ト屬ス之ヲ右ニモ可ナリ之ヲ左ニスルモ可ナリ是亦之者ノ料  
理<sup>此カ</sup>ニシテ一定ノ規程アルニテ到底外雜混礼ナカラシムヲ要スル  
ニ<sup>此カ</sup>其外雜混礼ナカシムヲ要スルカ為ニ目今從事スル所ヲ左  
ニ開列ス先大要ヲ掲ケテ三事トス

第一 編修スル事

第二 整頓スル事

第三 副本ヲ作ル事

第一章 月報<sup>下款</sup>編修ス 毎月上報スル所ニ款アリ凡  
寮内受理スル所大カノ事務各款ハ別ニテ之ヲ  
表ニ歎ス者ヲ上款トシ右ノ如クニ村市<sup>以下</sup>從界<sup>以下</sup>百般

又別ニ列ニ其業

一月間編修スル所ノ款月十日以上報スル所ノ期限トス



申際、指書を承る者其成取ノ外ニ在テ成例トナスニキ  
者其指令ノ主事ヲ尋得候充シテ判語ヲ下ス者  
ヲ下款トス平取捨者、須知、進擧ル所

月報記  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ  
元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ

元一條 元部より送致スルハ平領收調録ニ



件書 又三本二部同類二部書也他日  
 方十條 本腰字後に執了者目録三冊三照磨三朱點  
 方九條 寫字生一冊一記附了了スル毎二枚合  
 方十條 一月間備修を所模印腰字全備を以テ  
 之テ之ヲ壯セシム

但開卷第一紙左ノ一頁ヲ添

檢  
 地理 地理 地理  
 地理 地理 地理  
 地理 地理 地理

雜 某 十  
 海 某  
 海 某

一 方十條 裝本之業以ル中表紙上二月報十枚在例上何年何月何日  
 厚記之別一紙ヲ添テ頭ニ至ス

明次何年何月

月報下紙

所 古 何 一 見

但以上高橋印下付了九枚及表紙中二綴  
 以上高橋印下付了九枚及表紙中二綴

方十三條 若頭ノ檢印了者アレ目録ノ件銘上ニ 關 追テ補入 明字簽

ヲ掛外テ上報ス他日檢印済方三部ヨリ送 來ル件寫字生ニ付シテ騰寫

セシ方一上局ヨリ下ルヲ待ケ之ヲ補入ス 目録底用ノ朱圈又直上様シ

方十三條 方一本上局ヨリ下ルヲ待ケ之ヲ補入ス 方一ノ字簽ヲ除去ス

ニ命シテ書皮内ニ綴込ニシム 方十三條ノ者アレ一同ニ補入ス

方三三本 副本ヲ製シテ方六部ニ送致ス

方十四條 方三本ヲ分テ五冊或六七冊トシ假借シ 用 書 簿

何部シ字字ケ一付シテ再騰寫セシ 毎件書 手書 手書

方十四條 騰寫一冊事ル毎之ヲ投合シ金備 待 仕 且 命 記 之

方十條 方三本ノ諸冊ヲ合シ一冊或二冊トシ之ヲ仕立以ニ命シテ仕立

方十條 方三本ノ諸冊ヲ合シ一冊或二冊トシ之ヲ仕立以ニ命シテ仕立

方十條 方三本ノ諸冊ヲ合シ一冊或二冊トシ之ヲ仕立以ニ命シテ仕立

方十條 方三本ノ諸冊ヲ合シ一冊或二冊トシ之ヲ仕立以ニ命シテ仕立

但每件四原稿ヲ以テ裁合セヲナサス



元三十一條 元三年ニ就テ目錄ヲ番書リテ朱記シ毎件ノ始トニ番號ヲ朱記  
シ他日彼索ノ便ニ付ス

### 月報編修畧例

- 一 原文ヲ即照スル事
- 一 判讀ヲ列スル事
- 一 俗字ヲ去ル事

亦務テ原文ヲ變易セザラシム

増補別金員書

（元三十一條ノ下ニ付スル事）

元一條 諸申際ヲ即照スル務テ條記ナラシムシ要ス書面ノ原形ニ記  
載スル類之ヲ即照スル合計括數等ヲ書ス別紙ノ類モ亦皆不録ニ屬ス  
元二條 俗字ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス  
元三條 別紙ノ類ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス  
元四條 別紙ノ類ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス  
元五條 別紙ノ類ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス  
元六條 別紙ノ類ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス  
元七條 別紙ノ類ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス  
元八條 別紙ノ類ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス  
元九條 別紙ノ類ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス  
元十條 別紙ノ類ノ内ニ其ノ原由情況ヲ要スル者ハ之ヲ要スル者ノ類ニ列ス

元四條 申際ノ本文ニ至テハ知府知令心ヲ存モテ上申スル一ツナルヲ以テ

假令冗長或ハ不成語者アルモ秘テ原文ヲ變易改更セサルニ是語テ

變易セザラシムル者ナリ

元五條 指合ノ文ニ至リテ其ノ意旨ヲ明瞭ヲ圖ル者

アラニ一二ノ幹旋ニ因テ明瞭ヲ得ルカ如キ之ヲ改ルモ宜キトス

元七條 指合文最字句ヲ改更セサルニ但起筆書面ノ一ニテ、指合等

套之ヲ異レテ可ナリ

元八條 指合中知府知令ノ奉シテ全科玉條トスル者若シ主任者一時返テ

不成語等ヲ下スルアラハ之ヲ改ルモ宜キナリ

元九條 指合中數件ヲ同ル者ニ初テ條云々ニテ書スル者

アリ是ノ末書キテ後初テ條トスル者ニテ條トスル者ノ内ニ三條

ト一條件ノ三ノルヲ云々三ノ條トスル者ニテ條トスル者ノ内ニ三條

三ノ年ト云々三ノ月重ルヲ三ノ月ト云カ如シ此類ハ必テ一條ノ二條



ト改書スルモ

○御書ニ任及ル者アリ  
○分収アリ其書ヲ改書スル  
○御書ニ任及ル者アリ  
○分収アリ其書ヲ改書スル  
○御書ニ任及ル者アリ  
○分収アリ其書ヲ改書スル  
○御書ニ任及ル者アリ  
○分収アリ其書ヲ改書スル

市二三年

得失ヲ判スル事

市二條 先申候ヲ懸流シ以テ、指令ヲ懸テ流シ、必難現其言ヲ尋候テシ

規則ヲ探討シテ可否ノ所由ヲ論シ得失ヲ所辨ヲ判ス

市三條 前懸候テル者ハ必據テ論ラシメ

市三 大抵指令ノ評定ハ若ハ累及シ同類テ者ハ詳説スラシ

補フヲ佳トス

市七 文外ニ事故アル者アリ主者ノ所不知其意候フ(キ者ハ之ヲ主任

ニ向クテ之ヲ察スル者ハ頭公ノ潤色ヲ仰ク

市七 判法ニ至テハ衡文字句漢語ヲ用ルモ妨ナシト雖亦必奇僻

ナルハカス

市七 當察 發漢ノ者ハ必其行由ヲ初ニ書ス其体裁ハ判法ノ如

市三三章

文書ノ取極

市十七 御書ノ体俗候ヲ去シテ要ス。御 俗間尊長ニ對シテ百般序立ヲ奉

名ニ用ル所ハ去ル 候 處 間 相 類ニ用ル者ヲ云 相違互 相對

市十八 俗語ハ去シテ要スト申常套成語ノ類ニ至テ必之ヲ改サルヘシ

都合 差向 相違 間局 取詞 申出 等ノ類

市 近來多ク漢字ヲ用エ就中造語ニシテ不成語或ハ誤用者

アリ取詞ヲ調査トシテ何ヲ何票トシノ類上ハ俗間所用ノ字義下ハ則

漢字ノ義 特典ヲ特別 參考ヲ照会トシテ是 誤用ナリ 然レハ調

査特別ノ如キハ正院以下一般之ヲ用エ既ニ今日ノ成語ナル改(カラサル

者ノ如シ何票照會ノ字ニ取用サルニ照会ノ 照会ノ又ニアラサレ用エ

カラス 又將來ノ取來トシテ 今後ヲ取來トシノ類誤用可笑者亦用サルニ



















ニテゴビエンアハト云々  
又種々ノ粘丸者ナリ梁粟共ナリ黒赤白ノ品アリ

○小欵 大欵

沐浴 飯 會 齋 遷尸 設牀 屏于兩側ニ向

コレヲ小欵ト云フ

大欵ニテ

奉尸 欵 于 柩

コレヲ大欵ト云フ

柩ニ是ナリ 前ニ建中ニ置ク

尸ヲ奉レテ柩ニ欵 乃チ蓋ヲ加フ 即殯ナリ

コレト士喪禮ニ據テ好ムス

所内ニ是等儀ニ有テ奉ル

一 凡そ祭事ニ有テ是等儀ニ有テ奉ル  
其儀ニ是等儀ニ有テ奉ル  
其儀ニ是等儀ニ有テ奉ル  
其儀ニ是等儀ニ有テ奉ル

○山下幸名ノ向ニ度

本材ノ板目板目ノ溝字ノ向合ニ是ニ當テ心得テ文章板ノ注方カ  
何様モ有テ是ニ氏名目ニ致シ凡そ字ノ形見テ奉リ不ヤ

一 フレテ節目ト注メ可ヤノ同合コシハ節目ニテ可ヤ  
廿祝堂等ニ于大板石板等  
有節目施ニ大板有板等ニ用

又柩ノ字ニ用ヒ是ニ字書ニ木節也ト注シ又柩ノ字ニ用ヒ  
又木癭ノ字ヲ用ヒ候フシコブラ柩

後瘤ニ榘ノ字ヲ用 又木瘤 又木癭

榘ト注メテ宜モ 古キ所ニテハ用ヒス  
節目木節木瘤木癭ト用ヒス











市田七三傳の免れ角モナレバ志望モ不遂の妻ヲ有ルル市田七三  
且其像ノ者之ハ人ノ迷意ト記傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
以上傳列ノ内市田七三傳ニ方極ト其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ

七三傳書

お成事等墨屏の控之れ毎度好知の像に好知の像を墨屏に  
情難をなす所  
却て墨屏の控之れ毎度好知の像に好知の像を墨屏に  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ

市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ

三傳書

服部正伝

全傳書  
二傳書  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ

一全傳、返書

市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ  
市田七三傳ノ好知家老人由事年ノ事トシテ其意ニ傳スルハ好ミカラズトノ像カ























上ノ地名

上ノ地名

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一地理の次友孫淳氏著

皇國長門より東陸奥ニ至ル迄ノ地ノ名ハ差向キ日本紀古事

記等ニ見ユタル大倭豊秋津島ノ外之ナシ是ハ日本ヲ八分ニ四

國九州ニ名出ラズ別ニシタル全クノ大陸ノ名ナリ

外ニ浦安國 細戈千足國 磯輪上秀真國 玉牆内國

虚空見日本國 葦原千五百秋之瑞德國 豊葦原瑞德國

等ノ名アリ其内浦安瑞德ノ二称ハ誰モ能知リタル名ナレバイツ

レモ日本全國ヲ美称シタル名ニテ獨リ長門ヨリ陸奥ニ至ルマテノ

地ヲ單称スルニハ不都合ナルヘシ又葦原中國ニ称スルニ據リ中

國ト稱スヘキカ当今ニテハ山陽道ヲ中國ト稱スルニ美差アルヘシ玉

牆ノ内國ト稱シヨリ内國ト稱スヘキカ当今ニテハ外國ノ交際アル内

國ト稱モ亦我全國ニ冒ラシムルトナレリ

大倭豊秋津島ハ古ヨリ單ニ豊秋津島ト稱シ又單ニ秋津島







この書論一人不茹と一人の事多しを宗室重名の人と云ふ家  
石鏡言しわきまの事 因在後代多後代也 改言中不日去 改言中不日去  
たしつ先親御、あしつれ守りあはせ奉るを 改言中不日去 物心心大  
極く身事とは征御事、上奉るも奉る而も 改言中不日去 事玉御可御極  
あつたの御事 改言中不日去 十五年と 改言中不日去 御事 改言中不日去  
其、あつたの御事 改言中不日去 十六年と 改言中不日去 御事 改言中不日去  
此の内事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
極く御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
改言中不日去 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去

一 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去

ある御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去

一回前巻親類一回、

臨之其表御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去  
御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去 御事 改言中不日去

九月十日  
日向守

日向守



















書白雲書札

あつては新中しと書又新しうと書わち書そのふと書は設何侍る事係る  
とては神はし侍るなり

一 休久向三休久

是れは向久と新故の交りし生ん所ありある事未だ日圓なるなり  
一日を向久の事と新故の事とを言ふべし 宗室殿は是れ向久の事  
は生ん所ありある事未だ日圓なるなり 宗室殿は是れ向久の事  
は生ん所ありある事未だ日圓なるなり

三日記

休久向三休久

あつては新中しと書又新しうと書わち書そのふと書は設何侍る事係る  
とては神はし侍るなり

別紙

あつては新中しと書又新しうと書わち書そのふと書は設何侍る事係る  
とては神はし侍るなり

あつては新中しと書又新しうと書わち書そのふと書は設何侍る事係る  
とては神はし侍るなり

三日記

一 休久

あつては新中しと書又新しうと書わち書そのふと書は設何侍る事係る  
とては神はし侍るなり



















竹谷抄年三始  
再後見アリ  
信忠君御家督  
若此ノ娘也  
テアラハルヤ  
信忠君御家督  
信忠君御家督  
信忠君御家督

松平玄蕃元トテ代々玄蕃元トシテ竹谷ノ松平ナリ然ルニ竹谷松平ノ系因ヲ現ルニ  
信忠ト云フ人ナシ信忠ハ長親公ノ御嫡子二郎三郎殿ノ所事ニテ御家督ナサレタ  
ル徳川家三河八代中ノ御方即信定公ノ御兄ナリ既ニ正統ノ御家督人ナリ上ハ  
其族中ニ信忠ト云フ同名ナル御人ハアルモキキ等ナリ或ハ玄蕃殿事宿元ノ人ニテ  
信忠君御家督前信忠ト云ハレシヤモ知レサレ天文七年ノ卒去トアルニ信忠  
君信定公ト、大抵年甲モ似ヨリタルニ然レ其頃ノ宿元トモ思ハレ且竹谷  
松平ノ系因ニ見ハサレ最不審ノ所ナリ△橋井家ノ御先祖ハ即信定公ニ  
テ文龜年中御父長親君ヨリ橋井御ヲ御拜受ナサレタ事ナレハ即橋井家  
ノ御先祖別ニ御先祖也(キ謂レナシ然レカヲ玄蕃殿元ト橋井地頭  
ニテアリシヲ長親君ノ命ヲ以テ之ヲ廢シテ信定公ニ其御ヲ進ルルト云沃  
ニテモアリシヤ是ハ必無トモ云ヒ維ケレ氏前ニ云ル如ク竹谷ノ松平ナルハ竹谷ノ地  
頭ナルニ橋井ハ領セラルマシキカ或ハ又竹谷ノ松平事外ニ玄蕃ト称セ人アリシヤ  
此事伝テ疑ヒ△凡古傳ノ碑ト云ク者其品種ニアル者ナリ先ツ古戦  
国ノ特ニ文字ヲ知ル者少ナキ故筆記ト云フヲ稀ナリ又文字アル人ニテモ兵

馬ノ際ニ奔走シ居レハ是亦筆記ノ誤解ナシ又タカカ筆記セシ人アルモ一旦  
没落スレハ家財モ筆記モ皆散落スタトヒ没落セサルモ兵火ノ為ニ灰燼トナ  
ル等ニ真ノ古文書ハ稀ナル者ナリ故ニタカカノ太平ニ赴キ其時古老ノ  
傳説ヲ以テ傳説人トナリ其傳説ニ信スル説アリ不慥ナル説アリ其外ニ説  
ル説アリ故ニ古文書トテモ一既本ニ信セラズ近年諸家ノ系因ヲ撰ルニ種  
々様々異同アリ依テ之ヲ諸古書ニ參考シテ是ハ正シカラズ是ハ疑ヒト臆定ル  
途ノ事ナリ玄蕃殿事モ亦疑フ存ス事ナリ近年古傳書ハ流行ル  
ハ後年分明ニルルモアラレカ

一月華清暈棟ハ右信忠公ノ御女ニ  
是ハイハモ即系因ニ一説ニテ書載シタリイワレ玄蕃殿前出タス御娘也  
ケレ其家分明ナラレト上ニ云ルカ如シ且清暈棟モハキトシテ証據モ之ナキ  
ト見エ置去帳ニモ即系因ニ確ト書載ナク即系因ニ後一説トシテ載セ置  
去帳ニモ掛紙ニテ懸ケアル途ノ事ナリ○△附記家重公奥方棟ハ御田信長  
伯母父名ト即系因ニナリ此程儀回家ノ系因ヲ記ルニ御田信忠信定ニ人ノ



芝居院  
八月九日

子アリ嫡子ヲ信長トシテ是レ信長ノ父ナリ長  
長ノ為ニ親母ナリ是ヲ分明ナリ 櫻井ニ此ノ方ノ父  
タルヲナリ ○三州大樹寺遺書ニ長親公與方ノ御法  
友 櫻井ト云フ由是ハ信定公ノ嫡母ナリ然レニ  
三軍 申不モ何カ申シテハ信定公ノ嫡母ナリ

而久置置修之其後

○少ノ事柄ノカケル一有之在ニ進記ス

一 諸家系因算 水戸ニ集ル書家ノ系因三ノ元ト  
弟ニ玄蕃親房ト云フ 參陽松平氏傳記ト云書ニ  
三十餘部ヲ考ヘテ未ダノ誤ヲ 改正松平系因アリ其因ニ長親君直ノ弟ニ松  
平重書先親房 初松平改八郎ト稱シ後玄蕃先病身ニ依テ剃髮隨  
身齋ト稱ス 是レ信定公ノ御叔父ナリ  
一 三河二葉松ト云書ニ 三河ノ故事古蹟 櫻井村古城 浦喜平治松平玄蕃助記

○玄蕃殿ハ知  
行所トシテ進  
セシルニハア  
ラサルナリ且

房法名隨身信定叔父也松平内膳正信定家重家次忠正忠吉家二廣進六  
代在城 一同村堀内城 堀少三郎。一同村古屋敷 浅井六之助トアリ  
右 櫻井村 參陽松平氏傳記ト云書ニ 三河ノ故事古蹟 櫻井村古城 浦喜平治松平玄蕃助記  
井ノ中ノ事ハ 玄蕃殿 居居トナリソレヨリ 信定公ノ御領トナリハ櫻井ヲ隱栖ノ  
ニ見エ但ニ玄蕃殿 親房 病身ニテ剃髮 櫻井ヲ隱栖ノ  
如クシテ居ラレシ歟傳記ノ櫻井山道并大禪定門トナリモ畢竟剃髮  
故メ名ハシメシ 櫻井ト云ハ 櫻井ノ所由ナリ 野田所存ノ櫻井ノ事ハ 櫻井ニテハ 櫻井ニテハ 櫻井ニテハ  
小浦喜平治ト云ハ 櫻井 手末ト云ハ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ  
近年寛政重修諸家譜 寛政中公儀ニテハ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ  
ニテ一覽政シタルニ 山本家 元ト小浦ト稱シ 後山本ト稱シ 先祖小浦喜平治正則 掛川戦死  
三属シテ三河國櫻井ニ住ス其嫡子ト云フ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ  
内正親三男新五郎ト云フ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ  
親但シ或ハ喜石ト云フ 父ト喜平次ト云フニマ 武徳編年集ニテハ 櫻井ノ所由ナリ  
歳ヲ死タシ申シ正高ト云フニ年他合ハス ○堀少三郎 公以テハ 櫻井ノ所由ナリ  
櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ 櫻井ノ所由ナリ

公ニ書松浦時  
出所部ニハ浦  
喜平治櫻井



○武井六之助  
古家原  
家原  
永祿三年大  
三平  
水野許  
九平信定  
家重家次  
三平信定

○武井六之助 定は武井家より新平の 以上皆伊家ニ由流ん者共ナレハ二  
葉松ニ記スル所杜撰トモ思ハレヌ  
師は信定 堅ヲ勢安スルニ松平玄蕃九ト申ス全親房殿ノ一子也世者ニ  
武後モ勤ラレヌ 故ニ其家ハ 男子ナリ只一女オハセシヲ信定公ニ配偶セ  
サレ一坐橋井ニ厄介ニテオハセシカトモ思ハル 但し伊家ノ一親房殿  
始信忠ト稱スル者初名何トカ信トシヨトカ信トシトシ信トスル人多  
分誤ナルハシ

右あゆみ  
つるひ  
十日  
夜  
三  
時







